



SEIKEI
INSTITUTE FOR
INTERNATIONAL
STUDIES

SIIS

成蹊学園 国際教育センター

Vol.
26

NEWS

2017.9



JSAFプログラム

JSAFプログラムに参加した先輩たちのインタビューは中面にあります

日本スタディ・アブロード・ファンデーション（Japan Study Abroad Foundation、以下 JSAF）を通じ、アメリカ、イギリス、カナダ、アイルランド、オーストラリア、ニュージーランド、スペイン、フランス、ドイツにある約 95 大学へ半年もしくは 1 年間留学するプログラムです。プログラム費用は全額自己負担となりますが、留学期間中は成蹊大学への授業料等納付金の 3 分の 2 が減免、プログラム費補助金が給付されるほか、成蹊大学外国留学奨学金に申請することもできます。留学先で修得した授業科目は 60 単位を限度（学部）に卒業所要単位として認定され、4 年間での卒業も可能です。留学先が多岐にわたり、出願から留学中、帰国まで JSAF からさまざまなサポートを受けられるほか、成蹊大学生向けの特別奨学留学制度が設けられており、毎年多くの成蹊大学生が利用する留学プログラムです。

JSAFプログラム

7つの
キーワード

世界約 95 の
大学へ留学

成蹊大学への
納付金は
3 分の 2 減免

- ・プログラム費補助金あり
- ・本学の留学奨学金対象プログラム

（ほかに JSAF 独自の特別奨学留学制度あり）

帰国後に
単位認定有

4 年間での
卒業も可能*

JSAF の
安心サポート

無料
カウンセリング

*学部や履修状況により条件が異なります。詳細は各学部の履修要項にある「外国留学」の項目を確認すること。

JSAF 留学個別相談（無料カウンセリング）

プログラムの概要、大学選定やプログラム費用などを個別に相談することができます。

日時／9月26日(火)、10月6日(金)、11日(水)、19日(木)、11月1日(水)、9日(木)、14日(火)、12月6日(水) 各日12時～17時（ひとり約60分）

場所／大学1号館2階 国際教育センター会議室

URL <http://www.japanstudyabroad.org/>

事前予約制

TEL: 03-5287-2941 または Email: info@japanstudyabroad.org





千住 貞信 さん
(法学部)

ミシシッピ大学
(米国)

2016年8月～2017年5月留学

A1 幼少時から洋楽やハリウッド映画が大好きで、英語を熱心に勉強していました。長い間アメリカへの憧れがあり、いつか長期留学をしたいと思っていました。大学入学後にJSAFプログラムの存在を知り、留学を決意しました。

A2 1年次の10月からカウンセリングを受けるなど準備を始め、翌年の3月に留学先が決定しました。留学開始までは、洋楽鑑賞と洋画鑑賞をしながらリスニングとスピーキングの対策をしました。

A3 キャンパス内の寮で生活していました。キャンパス内は治安が良く、安心して毎日夜中の2時まで図書館にこもって勉強していました。週末は現地の日本語補習校のインターンと、授業の予習復習に時間を充てていました。休暇期間には、アメリカ各地を旅行するなど、充実した留学生活を送れたと思います。

A4 授業の予習、復習、宿題(レポート)の量が多く、とにかく勉強に忙しかったです。

A5 おすすめスポットは、「ヴォー・ヘミングウェイスタジアム」という大学内のスポーツ施設です。6万人収容のアメリカンフットボールスタジアムで、フットボールの時期になるとキャンパスはまるで祭りのように賑わっていました。

A6 JSAFプログラムは、寮や食事などに関してもJSAFが手続きしてくれるため、現地では入居契約などを気にすることなく、勉強に集中することができます。もし留学を希望するのであれば、学部留学を希望し、高いレベルの授業を受けることをおすすめします。



鄭 梨瑤 さん
(文学部)

インディアナ大学・パデュー大学
インディアナポリス
(米国)

2016年8月～2017年5月留学

A1 英語圏への留学は大学入学前からの目標でした。特にアメリカは映画業界をはじめ経済的にも世界で大きな影響をもたらしている大国なので憧れを持っていましたし、日本では体験できない多様性も味わいたかったので、留学しようと思いました。

A2 高校生の時からTOEFLを受験していましたが、留学を真剣に考え始めたのは大学1年次の前期が終わる頃。4年間で確実に卒業したかったので、カウンセリングで相談し、2年次後期から留学することに決めました。語学力向上と奨学金申請を目的に、TOEFL ITPのスコアアップを目指した勉強をしたほか、帰国後の就職活動との両立において負担が軽くなるよう、2年次前期までになるべく多くの単位を修得してから留学を開始しました。

A3 キャンパス内にある寮に住んでいたため、平日はキャンパス内の図書館や自習室で授業の予習や復習や課題などをしていました。休日は友達とダウントウンに出かけ、食事をしたり映画を観たり、また車で3時間ほどで行けるシカゴへ連れて行ってもらったりしました。



A4 留学前は家族と一緒に生活していたため、アメリカでの1年間の寮生活は自分が想像していたよりも寂しく感じることもありました。インディアナの冬は極寒なので、余計にそう感じてしまったのかもしれません。しかし、親元を離れ自炊や洗濯をしたり、お金の使い方に慎重になったことで、生きる力がぐんと身につく、自立できた気がします。

A5 私はアメリカの朝食が大好きなので、週末には友達と街に出てはブランチェレストラン巡りをしていました。近くのダウントウンには日本食レストランやスーパーがあるので、いわゆるアメリカっぽい食事やジャンクフードが好みでない人にもオススメです。

A6 JSAFプログラムのメリットはたくさんの選択肢があること。英語に自信がなくても、語学試験のスコアが基準を満たしていなくても、少しでも留学に興味がある人は一度カウンセリングに行って、相談してみたいかがでしょうか。



《《《《Q1》》》》
留学を決めた理由を教えてください。

《《《《Q2》》》》
留学に向けて具体的にどのような準備をしましたか? (※準備期間や語学試験対策、カウンセリング、心構え等)

《《《《Q3》》》》
留学先では、どのような生活を送っていましたか? (授業、寮、週末や休暇の過ごし方など)

《《《《Q4》》》》
留学先で特に苦労したこと、成長を実感できたことは何ですか?

《《《《Q5》》》》
現地のおすすめスポットやおすすめグルメを教えてください。

《《《《Q6》》》》
留学希望者へのアドバイス (JSAFプログラムのおすすめポイント)



袴塚 美波 さん
(文学部)

ノースアラバマ大学
(米国)

2016年3月～2016年12月留学

A1 中学生の頃からの英語を流暢に話せるようになりたいという漠然とした憧れに加え、大学1年次に参加したモナシユ大学サマースクールで様々なバックグラウンドを持つ人々と共に生活したことで、留学を決意しました。

A2 大学在学中の長期留学を目指して、入学当初からIELTSやTOEFLを勉強していました。実践教養カリキュラムや実践国際コースでは、IELTSやTOEFLのスピーキングやライティングを対策する機会もあってよかったです。留学に関して不安なこと(留学手続きやスコアアップに向けた勉強方法等)があった際には、国際課へ足を運んだり、JSAFへメールをするなど、その都度相談させていただきました。

A3 大学内の寮のダブルルーム(シャワー・トイレ兼用)に住んでいました。寮のラウンジで同じフロアの友人たちと映画を観ることが多かったです。平日は授業を1日2・3コマ受けた後、図書館で予習復習を中心に勉強し、夜ご飯は友人たちと食堂で食べました。週末は授業の課題がないときは買い物に行ったり、ジムでバドミントンなど身体を動かしてリフレッシュしていました。

A4 ショッピングモール行きのシャトルバスが週に1回出ていましたが、車がないと基本的にはどこにも出かけることができませんでした。遊びや買い物に行きたい時は、車を持っている友人に頼んで乗せてもらっていました。

A5 大学から徒歩圏内のダウントウンにはメキシコ料理、日本料理、イタリアン、カフェやバーなどが多くあります。ダウントウンにあるいくつかのカフェは雰囲気も良く、スムージーやパニーニなど非常に美味しかったです。大学内のスターバックスにはほぼ毎日通っていました。

A6 JSAFプログラムは、留学先の選択肢が多いのが特徴だと思います。日本人留学生の少ない大学がいい、都会・田舎がいい、大学の規模など、自分の理想の留学生活を思い描きながら留学先を選ぶことができます。自分が何を目的として留学するのかを明確にし、しっかりと準備をしていくことで、一生忘れられない留学生活を送ることができると思います。



北川 友理 さん
(経済学部)

アパラチアン州立大学
(米国)

2015年8月～2016年5月留学

A1 高校1年生でカナダに1ヶ月間留学をした時、英語を使う楽しさを知ったと同時に、周囲の人との意思疎通がままならない英語力に情けなさを感じ、留学を決意しました。

A2 パソコンに向かって行うTOEFL iBTの試験形式が合わず、国際課の方とも相談してIELTSに切り替えました。1回目の受験で語学基準を、2回目で奨学金基準をクリアしました。IELTSは慣れ親しんだペーパーテストで、スピーキングテストも対面式だったのでとてもやりやすかったです。また、留学先の国、州、地域の歴史や人種、宗教等について事前に学んだほか、大学から近い都市へのアクセス方法、周辺環境等も調べました。

A3 寮では仲のいい友達と部屋に遊びに行き夜中まで一緒に勉強をしたり、映画を観たりして過ごしていました。月曜日から木曜日までは、寮と授業、図書館を往復する生活で、朝から晩までほとんど1日中勉強。金曜日に土曜日はパーティーや買い物に出かけるなど徹底的に遊び、日曜日の朝はゆっくり起き出して、昼頃から一週間分の予習をするというスケジュールでした。



A4 文化的背景が違う人達と関わる中で不安なことや辛いことも少なからずありましたが、振り返ると全て経験してよかったと思うほど物事をプラスに考えられるようになりました。アメリカ人のポジティブな気質に助けられ、何でもダメで挑戦してみようと思うようになりました。また、未知の環境で1年間生き延びた自身の「なんとかする力」の強さを実感しました。

A5 田舎なので大学周辺にはあまりお店はないのですが、Come Back Shackという地産地消のハンバーガー屋さんがお勧めです。大学は山の中にあり、雄大な自然に囲まれていてハイキングのトレイルは無数にあります。Grand Father Mountainは、頂上からの景色が素晴らしく、特に紅葉の季節は息をのむほど壮大な景色が広がっています。

A6 私にとって留学経験は人生の分岐点と言っても過言ではなく、得るものは大きかったです。語学基準や費用、卒業時期、他の活動との兼ね合い、周辺環境等、留学を実現することはとても難しく思うことでした。しかし、留学の目的が明確にあるならば留学をするべきだと思います。大小問わず何でもいので、目標設定をして、それが達成できそうな留学先、環境を選ぶことをおすすめします。JSAFプログラムには選択肢がたくさんあり、どんな目標を達成するにも適した大学が見つかると思います。実りある留学生活になることを願っています。

留学の第一歩としてIELTSを受験しよう!

JSAFはIELTSの公式テストセンターとして認定されており、試験日の3日前まで申込み可能です。また、成蹊大学内でも年2回、IELTSを実施していますので、留学を検討している方、学内の留学奨学金を申請する方に受験をオススメします。

..... 学内 IELTS

- 実施日** 2018年3月15日(木)
- 申込期間** 2017年12月18日(日)～2018年3月12日(日)
- 申込方法** 申込期間内に国際課にて配布する資料に従い、オンラインにて申込み。

無料のIELTS準備コースを活用しよう!

10月6日(金)12時20分～14時20分、大学9号館101室にて、スコアアップを目指す学生を対象としたIELTSマスタークラスを開催します。実際のテストサンプルを見ながら、IELTSの概要や各セクションにおける採点基準の説明と、日本人が苦手なパートやスコアを得やすいパートなど、スコアアップのためのコツを伝授していただきます。ほかにもJSAF-IELTS試験申込者を対象としたオンライン講座やライティング無料添削模擬テスト、イベントなどの準備コースも多数提供されていますので、ぜひ活用してください。 URL <http://www.jsaf-ieltsjapan.com>



2017年度
後期受入れ

協定留学生紹介



中村 美由希さん
(文学部)

インディアナ州立大学
(米国)

2015年8月～2016年5月留学

A1 中学生の頃から、将来は英語を使う仕事に就きたいと思い、大学在学中に留学しようと考えていました。休学することなく在学したまま留学できる制度を利用し、2年次から留学しました。

A2 1年次後期にカウンセリングと出願などの手続きを経て、2年次の8月に出発しました。当初は2年次前期より留学を開始する予定でしたが、1・2年次の必修科目取得などの事情から2年次後期から変更しました。留学開始までの間、現地で受験予定だったTOEFLの対策のほか、パスポートの取得や諸手続き、持ち物の準備などやらなければいけないことが非常に多く、苦勞しました。



A3 前半は積極的に友達を誘ってハングアウトするなど、自分から行動することを心がけ、後半は課題や予習に追われることが多々ありましたが、週末は気持ちを切り替えて友人と遊ぶ時間として過ごしました。中でも、アメリカ人寮で過ごした9ヶ月の間で親友ができたことが一番印象に残っています。彼女はクリスマスなどの長期休暇に家に招待してくれ、寮生活だけでは出会えなかったであろう一般家庭での生活を経験させてもらうことができました。日本文化を紹介するイベントをホストしたこともいい思い出です。

A4 渡米後すぐ現地の人との会話の中で自分の英語力のなさに落ち込みました。しかし、アメリカで本物の英語が聞けるのは今だけだと自分に言い聞かせて、常に自分から行動するようになり、自主性を得られたと思います。渡米して3か月ほど経った時に食のカルチャーショックに陥り、何も食べられなくなってしまったのには苦勞しました。日本から送ってもらったパックのごはんや味噌汁を食べて復活することができました。

A5 「ザ・田舎」な地域なので大学周辺に娯楽施設はなく、大学内の施設(ジムや図書館)にはよく通いました。車を持っている友達とボウリングやスケート、公園に行くこともありました。おすすめグルメは、J GUMBOというスープ屋さんとアメリカンダイナーのCrackle Berryです。おすすめというわけではないのですが、寮の食堂が食べ放題だったため、7kg太りました。

A6 4年間をトータルで考えて留学時期を決めるのがベストです。私は成人式に出席できませんでしたが、4年間での卒業と所属するダンスサークルへの復帰を考えて留学時期を決めました。留学は不安なことも多くあると思いますが、もし留学できるチャンスを手に入れたなら、人生に1度しかないであろう機会を大切に過ごしてください。



海外の協定校10校より16名の協定留学生を受入れました。

フランス
リヨン第三大学
アンセルコイソフィドミック
カピュシンチエボ
リザスクアルシア

ドイツ
ボン大学
ユーリアツェンツマリア
リナメルマンイザベル
フィリップトライディ

ハイデルベルク大学
メリッサカウフマン
シュテファンウーリンガートマス

アメリカ
ウェスタンワシントン大学
カーラハンギラードジェイムス
カイハーバー

英国
エディンバラ大学

エリザベススワーヴェントルーバー

韓国
高麗大学
イダヨン

中国
広東外語外貿大学

ラウカリ
復旦大学
インハク

同済大学
ニエウェイ

オーストラリア
モナシュ大学
ジャーキービーアン



国際教育センター国際交流担当教員

Ms. Kuromatsu

のご紹介

留学プログラムや語学勉強のコツなど国際交流に関することを相談することができます。国際教育センター常勤講師室2(大学1号館2階)まで気軽にお越しください。

Hello! My name is Mari Kuromatsu. Please call me Mari. I joined SIIS in April. My main responsibility is to teach College English classes at Seikei University. My other responsibility with SIIS is to advise Seikei University students who wish to study abroad. My goal while at Seikei is to make Seikei more international by increasing the number of foreign exchange students coming to study at Seikei and also encouraging Seikei students to study abroad. In addition, I would like to promote international exchange and intercultural awareness on campus.

2018年度夏期
【短期協定留学】

ケンブリッジ大学 (英国) への派遣を再開します!

派遣希望者は説明会に参加してください。
説明会は両日とも同じ内容です。
ご都合の良い方に出席してください。

説明会 / 2017年10月3日(火)・13日(金)
12時20分～13時
大学1号館212室にて

出願期間 / 10月26日(木)～11月2日(木)

- 研修内容：英語および専門科目
- 春期休業期間中にオリエンテーション実施予定
- 修了者には単位認定(4単位)あり
- 給付奨学金(10万円)制度あり
- 九州大学との合同プログラム